様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 函館工業高等専門学校 |
| 設置者名 | 独立行政法人国立高等専門学校機構 |

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 学部名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 | | | | 省令で定める基準単位数 | 配置困難 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 全学共通科目 | 学部等共通科目 | 専門科目 | 合計 | | |
| | 生産システム工学科（機械コース） | | | | 9 | 9 | 7 | |
| | 生産システム工学科（電気電子コース） | | | | 12 | 12 | 7 | |
| | 生産システム工学科（情報コース） | | | | 15 | 15 | 7 | |
| | 物質環境工学科 | | | | 12 | 12 | 7 | |
| | 社会基盤工学科 | | | | 9 | 9 | 7 | |
| | 生産システム工学専攻 | | | | 14 | 14 | 7 | |
| | 物質環境工学専攻 | | | | 12 | 12 | 7 | |
| | 社会基盤工学専攻 | | | | 12 | 12 | 7 | |
| （備考） | | | | | | | | |

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.hakodate-ct.ac.jp/subject/syllabus

３．要件を満たすことが困難である学部等

| | |
|---|---|
| 学部等名 | なし |
| （困難である理由） | |

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 函館工業高等専門学校 |
| 設置者名 | 独立行政法人国立高等専門学校機構 |

１．理事（役員）名簿の公表方法

| |
|---|
| ホームページにて公表<br>https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/kisoku/yakuin-20221016.pdf |

２．学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容や期待する役割 |
|---|---|---|---|
| 常勤 | 熊本大学長 | 2016 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日 | 理事長 |
| 常勤 | 豊橋技術科学大学理事・副学長 | 2020 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日 | 国際交流･海外展開情報システム |
| 非常勤 | 東京大学教授 | 2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日 | 男女共同参画 |
| （備考） | | | |

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|---|---|
| 学校名 | 函館工業高等専門学校 |
| 設置者名 | 独立行政法人国立高等専門学校機構 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）
国立高等専門学校ではシラバスを統一したフォーマットで作成し,Web 上で公開している。
掲載事項は次のとおりである。
・科目基礎情報（科目名，開設期，単位数等）
・到達目標
・ルーブリック（理想的な到達レベルの目安，標準的な到達レベルの目安，未到達レベルの目安）
・学科の到達目標項目との関係
・教育方法等
・授業計画（授業内容・方法，週ごとの到達目標）
・評価割合（試験，発表，相互評価，態度，ポートフォリオ，レポート，合計）
授業計画の作成は，前年度の１月～２月に実施。
公表は毎年４月１日から実施。

| | |
|---|---|
| 授業計画書の公表方法 | https://www.hakodate-ct.ac.jp/subject/syllabus |

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）
全教員が出席する教員会議を開催し，全学生の各授業科目の成績や単位数等を記載した学業成績一覧表を確認して適切に成績評価を行い，進級・卒業・修了の認定を実施している。
成績評価の方法について，本科では「函館工業高等専門学校学業成績の評定並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規程」，専攻科では「函館工業高等専門学校専攻科の教育課程等に関する規程」に明記し，本校ホームページにて公表している。
学生の成績通知については，本科及び専攻科共に前期期末及び学年末毎に，各授業科目の成績評価と席次を記載した学業成績通知表を作成し，保護者へ郵送している。

| ３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 | |
|---|---|
| （客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）<br>学業成績の席次については，学級単位（専攻科の場合は，各学年の専攻単位）に，100 点法による評点の平均点で示す。なお，本科については，必修外選択科目の評定は加えない。専攻科については，教育課程表に記載のある科目のみで算出する（他機関科目の評定は加えない）。<br>また，客観的な指標の算出方法は本校ホームページにて公表している。<br><br>（本科）<br>学業成績の評定は，次のとおり実施している。<br>・期末成績は，試験の成績及び平素の成績によって評定する。<br>・学年成績は，各期の期末成績を総合して評定する。<br>・成績の評定は 100 点法を用い，整数で評点する。<br>・同一科目を複数の教員が担当している場合は，担当教員の合議によって評定する。<br>・試験以外の方法によって評定を行える科目又は特別の理由のある科目については，期末成績の評定を行わないことがある。<br>・正当な理由なく試験を欠席した者及び答案を提出しなかった者の当該科目の試験成績は，0 点とする。<br>・やむを得ない事由により試験を欠席した者に対して追試験がなされない場合は，成績の評定を行わないことがある。ただし，学年成績は評定する。<br>・担当教員が特に必要と認めた場合は，再試験及び補講等を行い，その結果を反映し評定を行うことができる。<br>・学業成績の評語は，秀（90 点～100 点），優（80 点～89 点），良（70 点～79 点），可（60 点～69 点）及び不可（0 点～59 点）で表すものとする。<br><br>（専攻科）<br>成績の評価及び評定は，次のとおり実施している。<br>・授業科目の成績評価は，試験の成績及び平素の学習状況等を総合して行うものとする。<br>・成績の評価は，100 点法により評価し，優（100 点～80 点），良（79 点～70 点），可（69 点～60 点）及び不可（59 点以下）と評定する。 | |
| 客観的な指標の算出方法の公表方法 | (本科)https://www.hakodate-ct.ac.jp/subject/syllabus<br>(専攻科) https://www.hakodate-ct.ac.jp/subject/senkou/curriculum |
| ４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 | |

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
（本科）
学年の課程の修了認定は，教員会議の議を経て校長が行うこととし，次の全てに該当する者は，当該学年の課程を修了したものとし進級を認める。
・算定出席日数が，年間の出席すべき日数の 10 分の 8 以上あること。ただし，傷病その他やむを得ない理由による欠席がある場合は，年間の出席すべき日数の 10 分の 7 以上であること。
・当該学年において修得すべき全ての必修科目及び選択必修科目を修得していること。
・第 1 学年から第 3 学年までは特別活動の出席日数が年間の出席すべき時間数の 10 分の 8 以上あること。ただし，傷病その他やむを得ない理由による欠席がある場合は，年間の出席すべき日数の 10 分の 7 以上であること。
・当該学年までの修得累積単位数が次の表の基準を満たしていること。

| 学科＼学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 生産システム工学科 | 24 | 57 | 93 | 127 | 167 |
| 物質環境工学科 | | | 93 | 130 | |
| 社会基盤工学科 | | | 92 | 128 | |

全学年において修得すべき全ての科目を修得した者は，本校の全学年の課程を修了したものとし，教員会議の議を経て，校長が卒業を認める。

（専攻科）
専攻科の修了の認定は，教員会議の議を経て校長が行う。
専攻科の修了にあたっては，次に掲げる要件を満たさなければならない。
・専攻科に 2 年以上在籍すること。
・学則に基づく所定の授業科目の履修として，次の表による単位を修得していること。

| 専攻名 | 共通科目 | | 専門科目 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 必修科目 | 選択科目 | 必修科目 | 選択科目 | |
| 生産システム工学専攻 | 18 単位 | 8 単位以上 | 20 単位 | 16 単位以上 | 62 単位以上 |
| 物質環境工学専攻 | 18 単位 | 8 単位以上 | 26 単位 | 10 単位以上 | 62 単位以上 |
| 社会基盤工学専攻 | 18 単位 | 8 単位以上 | 20 単位 | 16 単位以上 | 62 単位以上 |

・特別研究の成果を，学協会などで行われる研究発表会で発表していること。
・「学習・教育到達目標の達成度の評価方法と基準」に掲げる評価方法及び評価基準により，学習・教育到達目標を達成していること。

| 学習・教育到達目標の達成度の評価方法と基準(生産システム工学専攻) | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 学習・教育到達目標 | | | 評価基準(平成 30 年度以降の入学生) | | |
| | | | 機械コース出身 | 電気電子コース出身 | 情報コース出身 |
| A | A-1 | 自ら仕事を計画して継続的に実行し，まとめ上げることができる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」において，設計から製作までの計画を評価する。(計画の評価が 60%以上)<br>「特別研究Ⅰ(専 1)④」において，研究計画を立てて継続して実行したことを研究計画書および研究日誌により評価する。研究計画書が研究日誌に添付されており，研究時間が 90 時間以上。<br>「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，研究計画を立てて継続して実行し，まとめたことを研究計画書および研究日誌により評価する。研究計画書が研究日誌に添付されており，研究時間が 180 時間以上。 | | |
| | A-2 | チームの一員としての役割と責任を理解して自主的に行動 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」において，貢献度評価が 60%以上。 | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | できる。 | | | |
| | A-3 | ものづくりのための創意工夫をすることができる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」の中で，創意工夫をした点についての評価が 60%以上。 | | |
| B | B-1 | 数学および物理などの自然科学の基礎知識を持っている。 | 「品質管理(専 1)②」 | | |
| | | | 「応用解析学(専 1)②」，「流体物理(専 1)②」，「工業数学(専 1)②」の中のいずれか 1 科目以上。 | | |
| | B-2 | 機械工学(材料系，設計・加工系，熱流体系，制御系)，電気電子工学(回路エレクトロニクス系，通信系)，情報工学(ハードウエア系，ソフトウエア系，ネットワーク系)のいずれかの基礎知識とともに，それらを複合する基礎知識を持っている。 | 「マイクロコントローラ応用(専 1)②」，「アシスティブテクノロジー概論(専 1)②」，「ロボット制御論(専 1)②」 | | |
| | | | (以下の科目から 8 単位以上取得) | (以下の科目から 12 単位以上取得) | (以下の科目から 10 単位以上取得) |
| | | | 「流体物理(専 1)②」 | 「電子回路応用(専 1)②」 | 「システム設計工学(専 1)②」 |
| | | | 「システム設計工学(専 1)②」 | 「センサデバイス(専 1)②」 | 「アドバンスト信号処理(専 1)②」 |
| | | | 「駆動システム(専 1)②」 | 「アクチュエーター材料(専 1)②」 | 「知能システム(専 1)②」 |
| | | | 「機械材料応用(専 1)②」 | 「アドバンスト信号処理(専 1)②」 | 「オペレーティングシステム論(専 1)②」 |
| | | | 「加工技術応用(専 1)②」 | 「知能システム(専 1)②」 | 「電子回路応用(専 1)②」 |
| | | | 「センサデバイス(専 1)②」 | 「オペレーティングシステム論(専 1)②」 | 「シミュレーション工学(専 2)②」 |
| | | | 「知能システム(専 1)②」 | 「エネルギーシステム応用(専 2)②」 | 「ロボットビジョン(専 2)②」 |
| | | | 「バイオメカニクス(専 2)②」 | 「応用計測システム(専 2)②」 | 「データベース応用(専 2)②」 |
| | | | 「エネルギーシステム応用(専 2)②」 | 「シミュレーション工学(専 2)②」 | 「ネットワーク応用(専 2)②」 |
| | | | 「応用計測システム(専 2)②」 | 「ワイヤレス伝送工学(専 2)②」 | 「応用計測システム(専 2)②」 |
| | | | 「シミュレーション工学(専 2)②」 | 「ロボットビジョン(専 2)②」 | 「ワイヤレス伝送工学(専 2)②」 |
| | | | | 「データベース応用(専 2)②」 | |
| | | | | 「ネットワーク応用(専 2)②」 | |
| | B-3 | 実験などを通して機械工学，電気電子工学，情報工学に関する実践的な基礎技術を身につけている。 | 「システム工学実験(専 1)②」 において，各実験テーマの B-3 に関する評価項目の合計により評価する。(評価が 60%以上)<br>「地域課題対応型創造実験(専 1)④」において，成果報告書の B-3 に関する評価項目により評価する。(評価が 60%以上) | | |
| C | C-1 | 情報の収集や整理などに，コンピュータなどの情報技術を用いることができる。 | 「特別研究Ⅰ(専 1)④」または「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，コンピュータを用いて情報検索を行った事例により評価する。 | | |
| | C-2 | データの分析や解析，グラフ化，設計・製図などにコンピュータを活用することができる。 | 「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」の発表の中で，コンピュータを用いてデータの分析や解析，グラフ化や設計・製図を行ったか否かを評価する。 | | |
| | C-3 | 情報処理を行うためのハード | 「マイクロコントローラ応用(専 1)②」 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ウエアやソフトウエアの基礎技術について理解している。 | |
| D | D-1 | 国際社会の多様な歴史的背景や文化的価値観を理解できる。 | 「グローバル・ケーススタディ(専 1)②」 |
| | D-2 | 科学技術が人間や社会，自然環境および未来の世代に与える影響を理解できる。 | 「ユニバーサルデザイン論(専 1)②」 |
| | D-3 | 技術者としての社会に対する役割と責任について説明できる。 | 「インターンシップ(専 1)④」において，インターンシップ報告書および発表会におけるD-3に関する評価項目により評価する。(評価がそれぞれ 60%以上) |
| E | E-1 | 技術的課題について，自分の考えをまとめ，他者と討論できる。 | 「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，発表会の質疑応答の評価が 60%以上。 |
| | E-2 | 技術的成果を正確な日本語を用いて論理的な文書にまとめることができる。 | 「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，論文の評価が 60%以上。<br>学協会における発表の予稿が予稿集に掲載されたことにより達成したと評価する。 |
| | E-3 | 技術的成果を的確にプレゼンテーションすることができる。 | 「インターンシップ(専 1)④」において，インターンシップ報告会のプレゼンテーションの評価が 60%以上。<br>「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，発表会のプレゼンテーションの評価が 60%以上。<br>学協会で発表を行うことにより達成したと評価する。 |
| | E-4 | 国際的なコミュニケーションを行うための基礎的な英語理解力および表現力を持っている。 | 「グローバル・コミュニケーション(専 1)②」<br>「プラクティカル・サイエンス・イングリッシュ(専 2)②」 |
| F | F-1 | システムを構成する複数の分野の要素技術についての知識を持ち，その知識をシステムの組み上げに応用できる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」の要素技術に関する評価が 60%以上。 |
| | F-2 | 問題解決のためにデータに基づいた工学的な考察を行い，複数の解決手法を考案し，それらを評価してその中から最適な解決策を提案できる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」の中で，工夫・改善の評価が 60%以上。<br>「特別研究Ⅰ(専 1)④」または「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，試行錯誤の過程を記述させ，これにより評価する。(評価が 60%以上) |

| 学習・教育到達目標の達成度の評価方法と基準(物質環境工学専攻) | | | |
|---|---|---|---|
| 学習・教育到達目標 | | | 評価基準(平成 30 年度以降の入学生) |
| A | A-1 | 自ら仕事を計画して継続的に実行し，まとめ上げることができる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」において，設計から製作までの計画を評価する。(計画の評価が 60%以上)<br>「特別研究Ⅰ(専 1)④」において，研究計画を立てて継続して実行したことを研究計画書および研究日誌により評価する。研究計画書が研究日誌に添付されており，研究時間が 90 時間以上。<br>「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，研究計画を立てて継続して実行し，まとめたことを研究計画書および研究日誌により評価する。研究計画書が研究日誌に添付されており，研究時間が 180 時間以上。 |
| | A-2 | チームの一員としての役割と責任を理解して自主的に行動できる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」において，貢献度評価が 60%以上。 |
| | A-3 | ものづくりのための創意工夫をすることができる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」の中で，創意工夫をした点についての評価が 60%以上。 |
| B | B-1 | 数学および物理などの自然科学の基礎知識を持っている。 | 「品質管理(専 1)②」<br>「応用解析学(専 1)②」,「流体物理(専 1)②」,「工業数学(専 1)②」の中のいずれか 1 科目以上。 |
| | B-2 | 物質環境工学(応用化学系，バイオ系，環境系)の基礎知識を持っている。 | 「構造有機化学(専 1)②」,「土壌学(専 1)②」,「植物生理学(専 1)②」，「食品加工学(専 1)②」<br>「醸造・醗酵工学(専 2)②」，「化学生態学(専 2)②」，「機能性食品工学(専 2)②」 |
| | B-3 | 実験などを通して物質環境工学に関する実践的な基礎技術を身につけている。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」において，成果報告書の B-3 に関する評価項目により評価する。(評価が 60%以上) |
| C | C-1 | 情報の収集や整理などに，コンピュータなどの情報技術を用いることができる。 | 「特別研究Ⅰ(専 1)④」または「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，コンピュータを用いて情報検索を行った事例により評価する。 |
| | C-2 | データの分析や解析，グラフ化などにコンピュータを活用することができる。 | 「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」の発表の中で，コンピュータを用いてデータの分析や解析，グラフ化を行ったか否かを評価する。 |
| D | D-1 | 国際社会の多様な歴史的背景や文化的価値観を理解できる。 | 「グローバル・ケーススタディ(専 1)②」 |
| | D-2 | 科学技術が人間や社会，自然環境および未来の世代に与える影響を理解できる。 | 「北海道産業構造論(専 1)②」 |
| | D-3 | 技術者としての社会に対する役割と責任について説明できる。 | 「インターンシップ(専 1)④」において，インターンシップ報告書および発表会における D-3 に関する評価項目により評価する。(評価がそれぞれ 60%以上) |
| E | E-1 | 技術的課題について，自分の考えをまとめ，他者と討論できる。 | 「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，発表会の質疑応答の評価が 60%以上。 |
| | E-2 | 技術的成果を正確な日本語を用いて論理的な文書にまとめることができる。 | 「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，論文の評価が 60%以上。<br>学協会における発表の予稿が予稿集に掲載されたことにより達成したと評価する。 |
| | E-3 | 技術的成果を的確にプレゼンテーションすることができる。 | 「インターンシップ(専 1)④」において，インターンシップ報告会のプレゼンテーションの評価が 60%以上。<br>「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，発表会のプレゼンテーションの評価が 60%以上。<br>学協会で発表を行うことにより達成したと評価する。 |
| | E-4 | 国際的なコミュニケーションを行うための基礎的な英語理解力および表現力を持っている。 | 「グローバル・コミュニケーション(専 1)②」<br>「プラクティカル・サイエンス・イングリッシュ(専 2)②」 |
| F | F-1 | 問題を解決するための要素技術についての知識を持ち，その | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」の要素技術に関する評価が 60%以上。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 知識を応用できる。 | |
| | F-2 | 問題解決のために複数の解決手法を考案し，その中から最適な解決策を提案できる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」の中で，工夫・改善の評価が 60%以上。<br>「特別研究Ⅰ(専 1)④」または「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，試行錯誤の過程を記述させ，これにより評価する。(60%以上) |

| 学習・教育到達目標の達成度の評価方法と基準(社会基盤工学専攻) | | | |
|---|---|---|---|
| 学習・教育到達目標 | | | 評価基準(平成 30 年度以降の入学生) |
| A | A-1 | 自ら仕事を計画して継続的に実行し，まとめ上げることができる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」において，設計から製作までの計画を評価する。(計画の評価が 60%以上)<br>「特別研究Ⅰ(専 1)④」において，研究計画を立てて継続して実行したことを研究計画書および研究日誌により評価する。研究計画書が研究日誌に添付されており，研究時間が 90 時間以上。<br>「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，研究計画を立てて継続して実行し，まとめたことを研究計画書および研究日誌により評価する。研究計画書が研究日誌に添付されており，研究時間が 180 時間以上。 |
| | A-2 | チームの一員としての役割と責任を理解して自主的に行動できる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」において，貢献度評価が 60%以上。 |
| | A-3 | ものづくりのための創意工夫をすることができる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」の中で，創意工夫をした点についての評価が 60%以上。 |
| B | B-1 | 数学および物理などの自然科学の基礎知識を持ち，専門科目に応用できる。 | 「工業数学(専 1)②」，「弾性力学(専 1)②」<br>「応用物理(本 4)②」又は「応用物理特講Ⅰ(本 4，GM)②」 |
| | B-2 | 土木工学の基礎知識(構造系，水・環境系，地盤・防災・施工系，計画・マネジメント系)とともに，地域(地域系)やデザイン(デザイン系)に関する基礎知識を持っている。 | 「プロジェクト評価(専 1)②」(計画・マネジメント系)，「地域・まちづくり論(専 1)②」(地域系)<br>「コンクリート構造学Ⅲ(本 4)②」(構造系)，「水理学Ⅲ(本 4)②」(水・環境系)，「地盤工学(本 4)②」(地盤・防災・施工系)<br>「都市空間デザイン(本 4)①」または「都市空間デザイン特講(専 1)②」(デザイン系) |
| | B-3 | 実験，演習を通して土木工学に関する実践的な基礎技術を身につけている。 | 「社会基盤工学総合演習(専 2)②」において，各テーマの B-3 に関する評価項目の合計により評価する。(評価が 60%以上)<br>「建設工学実験Ⅰ(本 4)②」，「建設工学実験Ⅱ(本 5)②」 |
| C | C-1 | 情報の収集，データの整理や分析などに，コンピュータなどの情報技術を用いることができる。 | 「特別研究Ⅰ(専 1)④」または「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，コンピュータを用いて情報検索を行った事例により評価する。 |
| | C-2 | 設計や製図，解析などに情報技術を活用できる。 | 「社会基盤工学総合演習(専 2)②」において，各テーマの C-2 に関する評価項目の合計により評価する。(評価が 60%以上)<br>「構造設計製図Ⅰ(本 4)②」，「構造設計製図Ⅱ(本 5)②」 |
| D | D-1 | 国際社会の多様な歴史的背景や文化的価値観を理解できる。 | 「グローバル・ケーススタディ(専 1)②」 |
| | D-2 | 科学技術が人間や社会，自然環境および未来の世代に与える影響を理解できる。 | 「北海道産業構造論(専 1)②」 |
| | D-3 | 技術者としての社会に対する役割と責任について説明できる。 | 「インターンシップ(専 1)④」において，インターンシップ報告書および発表会における D-3 に関する評価項目により評価する。(評価がそれぞれ 60%以上) |
| E | E-1 | 技術的課題について，自分の考えをまとめ，他者と討論できる。 | 「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，発表会の質疑応答の評価が 60%以上。 |
| | E-2 | 技術的成果を正確な日本 | 「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，論文の評価が 60%以 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 語を用いて論理的な文書にまとめることができる。 | 上。<br>学協会における発表の予稿が予稿集に掲載されたことにより達成したと評価する。 |
| | E-3 | 技術的成果を的確にプレゼンテーションすることができる。 | 「インターンシップ(専 1)④」において，インターンシップ報告会のプレゼンテーションの評価が 60%以上。<br>「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，発表会のプレゼンテーションの評価が 60%以上。<br>学協会で発表を行うことにより達成したと評価する。 |
| | E-4 | 国際的なコミュニケーションを行うための基礎的な英語理解力および表現力を持っている。 | 「グローバル・コミュニケーション(専 1)②」<br>「プラクティカル･サイエンス･イングリッシュ(専 2)②」 |
| F | F-1 | 問題解決に向けて必要となる種々の基礎知識を活用し，制約条件を考慮して実現可能な方針を立案できる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」の要素技術に関する評価が 60%以上。 |
| | F-2 | 問題解決のために複数の解決方法を考案し，それらを評価してその中から最適な解決策を提案できる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」の中で，工夫・改善の評価が 60%以上。<br>「特別研究Ⅰ(専 1)④」または「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，試行錯誤の過程を記述させ，これにより評価する。(60%以上) |

| | |
|---|---|
| 卒業の認定に関する方針の公表方法 | https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/policy |

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 函館工業高等専門学校 |
| 設置者名 | 独立行政法人国立高等専門学校機構 |

## １．財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|---|---|
| 貸借対照表 | https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR3.pdf |
| 収支計算書又は損益計算書 | https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR3.pdf |
| 財産目録 | |
| 事業報告書 | https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/R3jigyouhoukoku.pdf |
| 監事による監査報告（書） | https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kansaR3.pdf |

## ２．事業計画（任意記載事項）

| |
|---|
| 単年度計画（名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画　対象年度：令和５年度） |
| 公表方法：https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/r5-keikaku.pdf |
| 中長期計画（名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画　対象年度：平成 31 年（2019 年）４月１日から令和６年（2024 年）３月 31 日まで） |
| 公表方法：https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/4th-keikaku.pdf |

## ３．教育活動に係る情報

### （１）自己点検・評価の結果

| |
|---|
| 公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/disclosure/system |

### （２）認証評価の結果（任意記載事項）

| |
|---|
| 公表方法： |

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　生産システム工学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/precepts）

（概要）

校訓・教育目的・目標

函館工業高等専門学校は,「汝が夢を持て　大志を抱け　力強かれ」を校訓に掲げ，本科 5 年間あるいは専攻科 2 年間を加えた 7 年間の一貫した教育プログラムのもとで，我国の技術立国を支える創造力と実行力を持った実践的技術者の育成をめざしている。

本校の目的（使命）

本校は，教育基本法の精神にのっとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

教育目的

技術者に必要な実践的かつ専門的な知識および技術を有する創造的な人材を育成するとともに，実践的研究の水準向上に努め，道南地域唯一の総合的な技術系高等教育機関として均衡ある発展を図る。

教育目標

本校は優れた技術者を育成する一方，技術相談や共同研究を通じて，地域社会や地域企業の発展に貢献したいと考えている。

本校は，実践的な技術者教育と地域に根ざした学校という特徴を生かして，大学とは異なる高等教育機関を目指す。本校は，地域，日本，世界のあらゆる分野で活躍するためには，以下の能力を備えた技術者が必要と考え，その育成を教育目標としている。

A. 創造力と実行力を持った技術者
B. 専門技術に関する基礎知識を持った技術者
C. 情報技術を活用できる技術者
D. 社会の歴史や文化，技術者倫理を理解して行動できる技術者
E. 多面的なコミュニケーション能力を持った技術者
F. 問題解決のためのデザイン能力を持った技術者

卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/policy）

（概要）

「函館工業高等専門学校学則」の第 14 条(学年課程の修了又は卒業の認定)において，各学年の課程の修了又は卒業を認めるにあたっては，学生の平素の成績を評価して行うものとしている。

「函館工業高等専門学校学業成績の評定並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規程」では，学年の課程の修了認定は，教員会議の議を経て校長が行うこととし，次の全てに該当する者は，当該学年の課程を修了したものとし進級を認める。

・算定出席日数が，年間の出席すべき日数の 10 分の 8 以上あること。ただし，傷病その他やむを得ない理由による欠席がある場合は,年間の出席すべき日数の 10 分の 7 以上であること。
・当該学年において修得すべき全ての必修科目及び選択必修科目を修得していること。
・第 1 学年から第 3 学年までは特別活動の出席日数が年間の出席すべき時間数の 10 分の 8 以上あること。ただし，傷病その他やむを得ない理由による欠席がある場合は，年間の出席すべき日数の 10 分の 7 以上であること。
・当該学年までの修得累積単位数が次の表の基準を満たしていること。

| 学科＼学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 生産システム工学科 | 24 | 57 | 93 | 127 | 167 |
| 物質環境工学科 | | | 93 | 130 | |
| 社会基盤工学科 | | | 92 | 128 | |

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/policy/）

（概要）
生産システム工学科の教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
1. 学科に共通する基礎的能力を習得するために
(1)自然科学分野，情報処理分野の基礎科目を１～３年に設け，講義や演習を主として展開する。
(2)初年時に工学のリテラシー科目を設け，講義や演習を主として展開する。
(3)低学年に地域社会，日本，そして国際社会の文化，歴史，政治経済，環境等を理解できるようになる基礎科目を設け，講義を主として展開する。
(4)全学年にわたり，日本語や英語でのコミュニケーションに必要な科目を設け，講義や演習を主として展開する。

2. 生産システム工学科の工学的専門能力を習得するために
(1)２年次以降に機械工学，電気電子工学，情報工学の３つの分野の基礎科目を設け，講義・演習・分野の基盤となる実験を段階的に展開する。
(2)高学年では機械工学，電気電子工学，情報工学を複合できるための共通の工学科目を講義，演習，実験で展開する。
・機械コースでは，機械工作，機械制御，材料力学，ロボット工学等に関する科目を講義，演習，実験実習で展開する。
・電気電子コースでは，電気・電子回路，エネルギー，通信等に関する科目を講義，演習，実験実習で展開する。
・情報コースでは，コンピュータのハードウェア，ソフトウェアおよびコンピュータネットワークの開発等に関する科目を講義，演習，実験実習で展開する。
(3)５年次には卒業研究を開講し，専門分野の知識を活かした研究遂行能力を育成する。

3. 分野を横断して必要な能力を習得するために
(1)全学年を通じ，ペアワークやグループワークなどを通して，調査，討論，発表などを伴う講義を展開する。
(2)高学年には知識，技術を主体的に習得し，協調・協働・コミュニケーションをとりながら課題の解決に取り組むことが必要なプロジェクトベースの科目を開講する。
(3)継続的に成長するための主体的な行動をとることができるキャリアデザインに関係する科目を低学年から展開する。特に４年生ではインターンシップを開講する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/policy/）

（概要）
【求める人材像】
函館高専は工学の知識とスキルを通して社会に貢献し，未来を柔軟で力強く生き抜く人材へと成長したい人を国内外から広く受け入れる。具体的には次のような人を歓迎する。
（1年次入学・帰国子女）
・科学技術に興味があり，それを活用して社会へ貢献する意欲のある人
・異なる文化を尊重し，国内及び国際社会で活躍したい人
・大学や専攻科に進学してさらに高い専門性を身につけたい人
・高専・大学・専攻科・実社会などの各ステージを通して成長し続けたい人
・仲間と協力してともに成長し，未来を切り開こうとする協調性やコミュニケーション能力のある人
（4年次編入学）
・将来取り組んでみたい課題を表現できる人
・生徒会，部活動，委員会等のような他者との関わりのなかで得られた経験を持つ人
・自らの意見や考えを的確に伝えることができる人
・国際社会で活躍したいと考えている人

生産システム工学科では５年間の教育過程で成長できる素養を持つ人材として，上記の項目に加え，次のような人の入学を期待する。
・機械・電気電子・情報に関連する技術（たとえば福祉機器の開発，ロボット技術，エネルギー技術，電子機器・通信技術，コンピュータや情報ネットワーク技術）を身につけ，社会の課題解決や発展に貢献したいと考えている人。

【入学者選抜方針】
本校では，「求める人材像」に沿って，その能力と適性を有する人材を選抜するため，

推薦による選抜，学力検査による選抜，帰国生徒特別選抜を行う。
（１年次入学）
　推薦による選抜は，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため，調査書および推薦書を評価するとともに各学科が求める人材像や，アドミッション・ポリシーに定めた観点にて面接と作文を行い，その結果を総合的に評価する。
　学力検査による選抜は，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため，学力検査を行い，その結果を調査書の評価と合わせて総合的に評価する。学力検査は国語，英語，数学，理科，社会の５教科である。
　帰国生徒特別選抜は，豊かな国際性と，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため，英語，数学，理科の３教科について学力検査を行う。加えて，目的意識，意欲，適性などに関してアドミッション・ポリシーに定めた観点にて面接と作文を行い，調査書等を合わせて，それらの結果を総合的に評価する。
（４年次編入学）
　本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため，学科共通の基盤としての数学と英語，さらには入学を希望する学科のアドミッション・ポリシーに定めた観点で専門科目に関する学力検査を行い，面接と調査書を合わせて総合的に評価する。

| 学部等名　物質環境工学科 |
| --- |
| 教育研究上の目的（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/precepts） |
| （概要）<br>校訓・教育目的・目標<br>　函館工業高等専門学校は,「汝が夢を持て　大志を抱け　力強かれ」を校訓に掲げ，本科5年間あるいは専攻科2年間を加えた7年間の一貫した教育プログラムのもとで，我国の技術立国を支える創造力と実行力を持った実践的技術者の育成をめざしている。<br>本校の目的（使命）<br>　本校は，教育基本法の精神にのっとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。<br>教育目的<br>　技術者に必要な実践的かつ専門的な知識および技術を有する創造的な人材を育成するとともに，実践的研究の水準向上に努め，道南地域唯一の総合的な技術系高等教育機関として均衡ある発展を図る。<br>教育目標<br>　本校は優れた技術者を育成する一方，技術相談や共同研究を通じて，地域社会や地域企業の発展に貢献したいと考えている。<br>　本校は，実践的な技術者教育と地域に根ざした学校という特徴を生かして，大学とは異なる高等教育機関を目指す。本校は，地域，日本，世界のあらゆる分野で活躍するためには，以下の能力を備えた技術者が必要と考え，その育成を教育目標としている。<br>　A. 創造力と実行力を持った技術者<br>　B. 専門技術に関する基礎知識を持った技術者<br>　C. 情報技術を活用できる技術者<br>　D. 社会の歴史や文化，技術者倫理を理解して行動できる技術者<br>　E. 多面的なコミュニケーション能力を持った技術者<br>　F. 問題解決のためのデザイン能力を持った技術者 |
| 卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/policy） |

（概要）

「函館工業高等専門学校学則」の第 14 条(学年課程の修了又は卒業の認定)において，各学年の課程の修了又は卒業を認めるにあたっては，学生の平素の成績を評価して行うものとしている。

「函館工業高等専門学校学業成績の評定並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規程」では，学年の課程の修了認定は，教員会議の議を経て校長が行うこととし，次の全てに該当する者は，当該学年の課程を修了したものとし進級を認める。

・算定出席日数が，年間の出席すべき日数の 10 分の 8 以上あること。ただし，傷病その他やむを得ない理由による欠席がある場合は，年間の出席すべき日数の 10 分の 7 以上であること。
・当該学年において修得すべき全ての必修科目及び選択必修科目を修得していること。
・第 1 学年から第 3 学年までは特別活動の出席日数が年間の出席すべき時間数の 10 分の 8 以上あること。ただし，傷病その他やむを得ない理由による欠席がある場合は，年間の出席すべき日数の 10 分の 7 以上であること。
・当該学年までの修得累積単位数が次の表の基準を満たしていること。

| 学科＼学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 生産システム工学科 | 24 | 57 | 93 | 127 | 167 |
| 物質環境工学科 | | | 93 | 130 | |
| 社会基盤工学科 | | | 92 | 128 | |

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/policy/）

（概要）

物質環境工学科の教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 学科に共通する基礎的能力を習得するために
   (1) 自然科学分野，情報処理分野の基礎科目を１～３年に設け，講義や演習を主として展開する。
   (2) 初年時に工学のリテラシー科目を設け，講義や演習を主として展開する。
   (3) 低学年に地域社会，日本，そして国際社会の文化，歴史，政治経済，環境等を理解できるようになる基礎科目を設け，講義を主として展開する。
   (4) 全学年にわたり，日本語や英語でのコミュニケーションに必要な科目を設け，講義や演習を主として展開する。

2. 物質環境工学科の工学的専門能力を習得するために
   (1) ２年次以降に化学，バイオテクノロジー，環境に関係する基礎科目を設け，講義・演習・分野の基盤となる実験を段階的に展開する。
   (2) 高学年では化学，バイオテクノロジー，環境に関する講義とより高度な応用実験科目を展開する。
   (3) ５年次には卒業研究を開講し，専門分野の知識を活かした研究遂行能力を育成する。

3. 分野を横断して必要な能力を習得するために
   (1) 全学年を通じ，ペアワークやグループワークなどを通して，調査，討論，発表などを伴う講義を展開する。
   (2) 高学年には知識，技術を主体的に習得し，協調・協働・コミュニケーションをとりながら課題の解決に取り組むことが必要なプロジェクトベースの科目を開講する。
   (3) 継続的に成長するための主体的な行動をとることができるキャリアデザインに関係する科目を低学年から展開する。特に４年生ではインターンシップを開講する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/policy/）

（概要）

【求める人材像】

函館高専は工学の知識とスキルを通して社会に貢献し，未来を柔軟で力強く生き抜く人材へと成長したい人を国内外から広く受け入れる。具体的には次のような人を歓迎する。

（1 年次入学・帰国子女）

・科学技術に興味があり，それを活用して社会へ貢献する意欲のある人
・異なる文化を尊重し，国内及び国際社会で活躍したい人
・大学や専攻科に進学してさらに高い専門性を身につけたい人

・高専・大学・専攻科・実社会などの各ステージを通して成長し続けたい人
・仲間と協力してともに成長し，未来を切り開こうとする協調性やコミュニケーション能力のある人
（4年次編入学）
・将来取り組んでみたい課題を表現できる人
・生徒会，部活動，委員会等のような他者との関わりのなかで得られた経験を持つ人
・自らの意見や考えを的確に伝えることができる人
・国際社会で活躍したいと考えている人

物質環境工学科では５年間の教育過程で成長できる素養を持つ人材として，上記の項目に加え，次のような人の入学を期待する。
・化学や生物工学の知識を身につけ，農水産業の発展や環境問題への取り組みを通し，地域や日本・世界の課題や発展に貢献したいと考えている人。

【入学者選抜方針】
本校では，「求める人材像」に沿って，その能力と適性を有する人材を選抜するため，推薦による選抜，学力検査による選抜，帰国生徒特別選抜を行う。
（１年次入学）
推薦による選抜は，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため，調査書および推薦書を評価するとともに各学科が求める人材像や，アドミッション・ポリシーに定めた観点にて面接と作文を行い，その結果を総合的に評価する。
学力検査による選抜は，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため，学力検査を行い，その結果を調査書の評価と合わせて総合的に評価する。学力検査は国語，英語，数学，理科，社会の５教科である。
帰国生徒特別選抜は，豊かな国際性と，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため，英語，数学，理科の３教科について学力検査を行う。加えて，目的意識，意欲，適性などに関してアドミッション・ポリシーに定めた観点にて面接と作文を行い，調査書等を合わせて，それらの結果を総合的に評価する。
（４年次編入学）
本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため，学科共通の基盤としての数学と英語，さらには入学を希望する学科のアドミッション・ポリシーに定めた観点で専門科目に関する学力検査を行い，面接と調査書を合わせて総合的に評価する。

| 学部等名　社会基盤工学科 |
| --- |
| 教育研究上の目的（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/precepts） |

（概要）
校訓・教育目的・目標
函館工業高等専門学校は，「汝が夢を持て　大志を抱け　力強かれ」を校訓に掲げ，本科5年間あるいは専攻科2年間を加えた7年間の一貫した教育プログラムのもとで，我国の技術立国を支える創造力と実行力を持った実践的技術者の育成をめざしている。
本校の目的（使命）
本校は，教育基本法の精神にのっとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。
教育目的
技術者に必要な実践的かつ専門的な知識および技術を有する創造的な人材を育成するとともに，実践的研究の水準向上に努め，道南地域唯一の総合的な技術系高等教育機関として均衡ある発展を図る。
教育目標
本校は優れた技術者を育成する一方，技術相談や共同研究を通じて，地域社会や地域企業の発展に貢献したいと考えている。
本校は，実践的な技術者教育と地域に根ざした学校という特徴を生かして，大学とは異なる高等教育機関を目指す。本校は，地域，日本，世界のあらゆる分野で活躍するためには，以下の能力を備えた技術者が必要と考え，その育成を教育目標としている。
A. 創造力と実行力を持った技術者
B. 専門技術に関する基礎知識を持った技術者
C. 情報技術を活用できる技術者
D. 社会の歴史や文化，技術者倫理を理解して行動できる技術者

E. 多面的なコミュニケーション能力を持った技術者
F. 問題解決のためのデザイン能力を持った技術者

卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/policy）

（概要）

「函館工業高等専門学校学則」の第14条(学年課程の修了又は卒業の認定)において，各学年の課程の修了又は卒業を認めるにあたっては，学生の平素の成績を評価して行うものとしている。

「函館工業高等専門学校学業成績の評定並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規程」では，学年の課程の修了認定は，教員会議の議を経て校長が行うこととし，次の全てに該当する者は，当該学年の課程を修了したものとし進級を認める。

・算定出席日数が，年間の出席すべき日数の10分の8以上あること。ただし，傷病その他やむを得ない理由による欠席がある場合は，年間の出席すべき日数の10分の7以上であること。
・当該学年において修得すべき全ての必修科目及び選択必修科目を修得していること。
・第1学年から第3学年までは特別活動の出席日数が年間の出席すべき時間数の10分の8以上あること。ただし，傷病その他やむを得ない理由による欠席がある場合は，年間の出席すべき日数の10分の7以上であること。
・当該学年までの修得累積単位数が次の表の基準を満たしていること。

| 学科＼学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 生産システム工学科 | 24 | 57 | 93 | 127 | 167 |
| 物質環境工学科 | | | 93 | 130 | |
| 社会基盤工学科 | | | 92 | 128 | |

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/policy/）

（概要）

社会基盤工学科の教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 学科に共通する基礎的能力を習得するために
   (1)自然科学分野，情報処理分野の基礎科目を１～３年に設け，講義や演習を主として展開する。
   (2)初年時に工学のリテラシー科目を設け，講義や演習を主として展開する。
   (3)低学年に地域社会，日本，そして国際社会の文化，歴史，政治経済，環境等を理解できるようになる基礎科目を設け，講義を主として展開する。
   (4)全学年にわたり，日本語や英語でのコミュニケーションに必要な科目を設け，講義や演習を主として展開する。

2. 社会基盤工学科の工学的専門能力を習得するために
   (1)２年次以降に大規模構造物，インフラ設計，都市デザインなどに関係する基礎科目を設け，講義・演習・分野の基盤となる実験を段階的に展開する。
   (2)高学年では上記(1)に加え，景観，都市計画，防災など建設設計分野の高度な内容の科目を開講する。
   (3)５年次には卒業研究を開講し，専門分野の知識を活かした研究遂行能力を育成する。

3. 分野を横断して必要な能力を習得するために
   (1)全学年を通じ，ペアワークやグループワークなどを通して，調査，討論，発表などを伴う講義を展開する。
   (2)高学年には知識，技術を主体的に習得し，協調・協働・コミュニケーションをとりながら課題の解決に取り組むことが必要なプロジェクトベースの科目を開講する。
   (3)継続的に成長するための主体的な行動をとることができるキャリアデザインに関係する科目を低学年から展開する。特に４年生ではインターンシップを開講する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/subject/admission）

（概要）
【求める人材像】
　函館高専は工学の知識とスキルを通して社会に貢献し，未来を柔軟で力強く生き抜く人材へと成長したい人を国内外から広く受け入れる。具体的には次のような人を歓迎する。
（1年次入学・帰国子女）
・科学技術に興味があり，それを活用して社会へ貢献する意欲のある人
・異なる文化を尊重し，国内及び国際社会で活躍したい人
・大学や専攻科に進学してさらに高い専門性を身につけたい人
・高専・大学・専攻科・実社会などの各ステージを通して成長し続けたい人
・仲間と協力してともに成長し，未来を切り開こうとする協調性やコミュニケーション能力のある人
（4年次編入学）
・将来取り組んでみたい課題を表現できる人
・生徒会，部活動，委員会等のような他者との関わりのなかで得られた経験を持つ人
・自らの意見や考えを的確に伝えることができる人
・国際社会で活躍したいと考えている人

　社会基盤工学科では５年間の教育過程で成長できる素養を持つ人材として，上記の項目に加え，次のような人の入学を期待する。
・私たちの生活を支えるインフラ(社会基盤)の設計・建設・デザイン，まちづくりの知識を身につけ，自然災害から人命を守り，自然再生可能エネルギーの利用をはじめとした自然と調和した持続可能な未来社会の課題解決や発展に貢献したいと考えている人。
【入学者選抜方針】
　本校では，「求める人材像」に沿って，その能力と適性を有する人材を選抜するため，推薦による選抜，学力検査による選抜，帰国生徒特別選抜を行う。
（１年次入学）
　推薦による選抜は，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため，調査書および推薦書を評価するとともに各学科が求める人材像や，アドミッション・ポリシーに定めた観点にて面接と作文を行い，その結果を総合的に評価する。
　学力検査による選抜は，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため，学力検査を行い，その結果を調査書の評価と合わせて総合的に評価する。学力検査は国語，英語，数学，理科，社会の５教科である。
　帰国生徒特別選抜は，豊かな国際性と，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため，英語，数学，理科の３教科について学力検査を行う。加えて，目的意識，意欲，適性などに関してアドミッション・ポリシーに定めた観点にて面接と作文を行い，調査書等を合わせて，それらの結果を総合的に評価する。
（４年次編入学）
　本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため，学科共通の基盤としての数学と英語，さらには入学を希望する学科のアドミッション・ポリシーに定めた観点で専門科目に関する学力検査を行い，面接と調査書を合わせて総合的に評価する。

| 学部等名　専攻科（生産システム工学専攻） |
| --- |
| 教育研究上の目的（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/subject/senkou/aim） |

（概要）
　函館高専の専攻科は，生産システム工学専攻，物質環境工学専攻，社会基盤工学専攻の３専攻で構成され，高等専門学校本科における５年間の教育で培われた実践的技術者としての基盤の上に，高い専門性と広い視野，自ら新分野を開拓できる問題発見・解決能力と研究開発能力，国際的なコミュニケーション能力を備えた創造的な技術者の育成を目指しています。そのため，専攻科の目的（使命）及び各専攻の教育目的は次のように定められている。
専攻科の目的（使命）
　専攻科は，高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し，もって広く産業の発展に寄与する人材を養成することを目的とする。
　生産システム工学専攻では，本科課程で学んだ生産システム工学の基礎知識を基盤として，機械工学（材料系，設計・加工系，熱流体系，制御系），電気電子工学（回路エレクト

ロニクス系，通信系)，情報工学（ハードウエア系，ソフトウエア系，ネットワーク系）のそれぞれの専門性をさらに深め，それらを複合する領域での問題解決に当たることができるデザイン能力を持った実践的技術者を育成することを教育目的とする。

教育目標

本校は優れた技術者を育成する一方、技術相談や共同研究を通じて、地域社会や地域企業の発展に貢献したいと考えている。

本校は、実践的な技術者教育と地域に根ざした学校という特徴を生かして、大学とは異なる高等教育機関を目指します。本校は、地域、日本、世界のあらゆる分野で活躍するためには、以下の能力を備えた技術者が必要と考え、その育成を教育目標としている。

A. 創造力と実行力を持った技術者
B. 専門技術に関する基礎知識を持った技術者
C. 情報技術を活用できる技術者
D. 社会の歴史や文化、技術者倫理を理解して行動できる技術者
E. 多面的なコミュニケーション能力を持った技術者
F. 問題解決のためのデザイン能力を持った技術者

卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/policy)

（概要）

「函館工業高等専門学校専攻科の教育課程等に関する規程」において，次のとおり定めている。

専攻科の修了の認定は，教員会議の議を経て校長が行う。

専攻科の修了にあたっては，次に掲げる要件を満たさなければならない。

・専攻科に 2 年以上在籍すること。
・学則に基づく所定の授業科目の履修として，次の表による単位を修得していること。

| 専攻名 | 共通科目 | | 専門科目 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 必修科目 | 選択科目 | 必修科目 | 選択科目 | |
| 生産システム工学専攻 | 18 単位 | 8 単位以上 | 20 単位 | 16 単位以上 | 62 単位以上 |

・特別研究の成果を，学協会などで行われる研究発表会で発表していること。
・「学習・教育到達目標の達成度の評価方法と基準」に掲げる評価方法及び評価基準により，学習・教育到達目標を達成していること。

| 学習・教育到達目標の達成度の評価方法と基準(生産システム工学専攻) | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 学習・教育到達目標 | | | 評価基準(平成 30 年度以降の入学生) | | |
| | | | 機械コース出身 | 電気電子コース出身 | 情報コース出身 |
| A | A-1 | 自ら仕事を計画して継続的に実行し，まとめ上げることができる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」において，設計から製作までの計画を評価する。(計画の評価が 60%以上)<br>「特別研究Ⅰ(専 1)④」において，研究計画を立てて継続して実行したことを研究計画書および研究日誌により評価する。研究計画書が研究日誌に添付されており，研究時間が 90 時間以上。<br>「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，研究計画を立てて継続して実行し，まとめたことを研究計画書および研究日誌により評価する。研究計画書が研究日誌に添付されており，研究時間が 180 時間以上。 | | |
| | A-2 | チームの一員としての役割と責任を理解して自主的に行動できる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」において，貢献度評価が 60%以上。 | | |
| | A-3 | ものづくりのための創意工夫をすることができる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」の中で，創意工夫をした点についての評価が 60%以上。 | | |
| B | B-1 | 数学および物理などの自然科学の基礎知識を持っている。 | 「品質管理(専 1)②」 | | |
| | | | 「応用解析学(専 1)②」，「流体物理(専 1)②」，「工業数学(専 1)②」の中のいずれか 1 科目以上。 | | |
| | B-2 | 機械工学(材料系，設計・加工系，熱流体系，制御系)，電気電子工 | 「マイクロコントローラ応用(専 1)②」，「アシスティブテクノロジー概論(専 1)②」，「ロボット制 | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 学(回路エレクトロニクス系，通信系)，情報工学(ハードウエア系，ソフトウエア系，ネットワーク系)のいずれかの基礎知識とともに，それらを複合する基礎知識を持っている。 | 御論(専 1)②」 | | |
| | | | (以下の科目から 8 単位以上取得) | (以下の科目から 12 単位以上取得) | (以下の科目から 10 単位以上取得) |
| | | | 「流体物理(専 1)②」 | 「電子回路応用(専 1)②」 | 「システム設計工学(専 1)②」 |
| | | | 「システム設計工学(専 1)②」 | 「センサデバイス(専 1)②」 | 「アドバンスト信号処理(専 1)②」 |
| | | | 「駆動システム(専 1)②」 | 「アクチュエーター材料(専 1)②」 | 「知能システム(専 1)②」 |
| | | | 「機械材料応用(専 1)②」 | 「アドバンスト信号処理(専 1)②」 | 「オペレーティングシステム論(専 1)②」 |
| | | | 「加工技術応用(専 1)②」 | 「知能システム(専 1)②」 | 「電子回路応用(専 1)②」 |
| | | | 「センサデバイス(専 1)②」 | 「オペレーティングシステム論(専 1)②」 | 「シミュレーション工学(専 2)②」 |
| | | | 「知能システム(専 1)②」 | 「エネルギーシステム応用(専 2)②」 | 「ロボットビジョン(専 2)②」 |
| | | | 「バイオメカニクス(専 2)②」 | 「応用計測システム(専 2)②」 | 「データベース応用(専 2)②」 |
| | | | 「エネルギーシステム応用(専 2)②」 | 「シミュレーション工学(専 2)②」 | 「ネットワーク応用(専 2)②」 |
| | | | 「応用計測システム(専 2)②」 | 「ワイヤレス伝送工学(専 2)②」 | 「応用計測システム(専 2)②」 |
| | | | 「シミュレーション工学(専 2)②」 | 「ロボットビジョン(専 2)②」 | 「ワイヤレス伝送工学(専 2)②」 |
| | | | | 「データベース応用(専 2)②」 | |
| | | | | 「ネットワーク応用(専 2)②」 | |
| | B-3 | 実験などを通して機械工学，電気電子工学，情報工学に関する実践的な基礎技術を身につけている。 | 「システム工学実験(専 1)②」 において，各実験テーマの B-3 に関する評価項目の合計により評価する。(評価が 60%以上)<br>「地域課題対応型創造実験(専 1)④」において，成果報告書の B-3 に関する評価項目により評価する。(評価が 60%以上) | | |
| C | C-1 | 情報の収集や整理などに，コンピュータなどの情報技術を用いることができる。 | 「特別研究Ⅰ(専 1)④」または「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，コンピュータを用いて情報検索を行った事例により評価する。 | | |
| | C-2 | データの分析や解析，グラフ化，設計・製図などにコンピュータを活用することができる。 | 「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」の発表の中で，コンピュータを用いてデータの分析や解析，グラフ化や設計・製図を行ったか否かを評価する。 | | |
| | C-3 | 情報処理を行うためのハードウエアやソフトウエアの基礎技術について理解している。 | 「マイクロコントローラ応用(専 1)②」 | | |
| D | D-1 | 国際社会の多様な歴史的背景や文化的価値観を理解できる。 | 「グローバル・ケーススタディ(専 1)②」 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | D-2 | 科学技術が人間や社会，自然環境および未来の世代に与える影響を理解できる。 | 「ユニバーサルデザイン論(専 1)②」 |
| | D-3 | 技術者としての社会に対する役割と責任について説明できる。 | 「インターンシップ(専 1)④」において，インターンシップ報告書および発表会におけるD-3に関する評価項目により評価する。(評価がそれぞれ 60%以上) |
| E | E-1 | 技術的課題について，自分の考えをまとめ，他者と討論できる。 | 「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，発表会の質疑応答の評価が 60%以上。 |
| | E-2 | 技術的成果を正確な日本語を用いて論理的な文書にまとめることができる。 | 「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，論文の評価が 60%以上。<br>学協会における発表の予稿が予稿集に掲載されたことにより達成したと評価する。 |
| | E-3 | 技術的成果を的確にプレゼンテーションすることができる。 | 「インターンシップ(専 1)④」において，インターンシップ報告会のプレゼンテーションの評価が 60%以上。<br>「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，発表会のプレゼンテーションの評価が 60%以上。<br>学協会で発表を行うことにより達成したと評価する。 |
| | E-4 | 国際的なコミュニケーションを行うための基礎的な英語理解力および表現力を持っている。 | 「グローバル・コミュニケーション(専 1)②」<br>「プラクティカル・サイエンス・イングリッシュ(専 2)②」 |
| F | F-1 | システムを構成する複数の分野の要素技術についての知識を持ち，その知識をシステムの組み上げに応用できる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」の要素技術に関する評価が 60%以上。 |
| | F-2 | 問題解決のためにデータに基づいた工学的な考察を行い，複数の解決手法を考案し，それらを評価してその中から最適な解決策を提案できる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」の中で，工夫・改善の評価が 60%以上。<br>「特別研究Ⅰ(専 1)④」または「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，試行錯誤の過程を記述させ，これにより評価する。(評価が 60%以上) |

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/policy）

（概要）

教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

専攻科では情報収集，企画立案・設計，実験，考察を進める総合力を有し，地域および世界で活躍できる技術者あるいは研究者を育成するために，専攻ごとに必要な科目を体系的に配置した教育課程を編成する。

修了認定の方針に掲げる能力を育成するため，語学力，コミュニケーション力，地域や世界を理解する能力を養う一般科目，各専攻の分野横断的な専門共通科目，各専攻において実践的な能力を育成する専門科目を配置している。

生産システム工学専攻では，機械工学，電気電子工学，情報工学の 3 分野の技術を複合した技術に対応し問題解決できる人材を育成するためのカリキュラムを編成する。

1. 専攻科共通の知識と技術を習得するために
   (1) 工学の基盤となる自然科学分野，さらに経済，地域および国際社会を理解する科目を設け，講義を主として展開する。
   (2) 必要な情報の収集やデータの解析に情報技術を駆使するため，コンピュータを活用する科目を設け，講義を主として展開する。
   (3) 技術者としての社会的責任，技術が自然や社会に与える影響を理解するため，技術者倫理に関する科目を設け，講義を主として展開する。
2. 生産システム工学専攻の工学的専門能力を習得するために
   (1) 主となる機械工学分野，電気電子工学分野，情報工学分野の専門科目を設け，講義，演習，実験を主として展開する。
   (2) 情報処理を行うためのハードウェアやソフトウェアに関する科目を設け，講義，

演習を主として展開する。
3. 社会における課題を解決できる総合的な力を習得するために
課題解決型授業により，
(1)主となる専門工学分野に加え，幅広い専門知識も複合させた実験を主とした学修方法を展開する。
(2)論理的なプロセスを設計・実践するための企画立案と創意工夫を伴う学修方法を展開する。
(3)社会における技術者や研究者の実務を理解し，継続的努力を伴う特別研究やインターンシップを設ける。
4. 意見を伝え，周囲と協調し合うコミュニケーション力を習得するために
(1)技術課題について日本語や英語で考えをまとめ，発表し，他者と討論できるため，英語による資料作成や発表を伴う科目を設け，講義や演習を主として展開する。
(2)地域の実課題などの解決にチームで取り組む中でコミュニケーションをとり，合意形成や問題解決を図る力を育成する観点から課題解決型の授業を設け，実験，ディスカッションなどを伴う学修方法を展開する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/policy）

（概要）
入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)
【求める人材像】
函館高専の専攻科課程では，創造的な技術開発能力，情報の高度処理能力及び提示能力，国際化への対応能力を総合的に兼ね備え，清廉な技術者倫理と社会への強い貢献意識を持った質の高い実践的技術者の育成を目指している。これを実現するため，各専攻科では教育を受けるにふさわしい学力，すなわち専門分野の基礎知識・数理能力・語学力を備え，専攻科入学以降もこれらの能力に加え，課題解決能力，特別研究遂行能力を高め，自らのキャリアデザインに生かそうとする意欲を備えた高専・短大等の卒業生，社会人を受け入れる。

(専攻科共通のアドミッションポリシー)
専攻科では，次のような人の入学を期待している。
・地球規模で活躍する自分を想像して，国際社会と関わりを持とうという意欲のある人
・自らの良心に従って物事を判断しようとする人
(生産システム工学専攻のアドミッションポリシー)
・機械工学，電気電子工学，情報工学の知識を高め，それらを複合したものづくりや課題解決に取り組みたいという意欲のある人

【入学者選抜方針】
本校では，「求める人材像」に沿って，その能力と適性を有する人材を選抜するため，推薦による選抜，学力試験による選抜，および社会人特別選抜を行う。

推薦による選抜では，出身学校長が推薦した学生で，本校専攻科を受けるのに必要な素養と基礎学力を備えた学生を選抜するため，推薦書，調査書，成績証明書，自己アピール書およびアドミッションポリシーに定めた観点での面接を行い，その結果を総合的に評価する。
学力検査による選抜では，本校専攻科を受けるのに必要な素養と数学，英語，および志望する専攻科の専門科目の基礎学力を備えた学生を選抜するため，学力検査結果およびTOEIC や英検のスコアと調査書，成績証明書，およびアドミッションポリシーに定めた観点での面接の結果を総合的に評価する。
社会人特別選抜では，所属する企業等が推薦し，本校専攻科を受けるのに必要な素養と基礎学力を備えた学生を選抜するため，推薦書，調査書，成績証明書，英語能力に関する書類，並びにアドミッションポリシーに定めた観点での面接を行い，その結果を総合的に評価する。

学部等名　専攻科（物質環境工学専攻）

教育研究上の目的（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/subject/senkou/aim）

（概要）

函館高専の専攻科は，生産システム工学専攻，物質環境工学専攻，社会基盤工学専攻の３専攻で構成され，高等専門学校本科における５年間の教育で培われた実践的技術者としての基盤の上に，高い専門性と広い視野，自ら新分野を開拓できる問題発見・解決能力と研究開発能力，国際的なコミュニケーション能力を備えた創造的な技術者の育成を目指しています。そのため，専攻科の目的（使命）及び各専攻の教育目的は次のように定められている。

専攻科の目的（使命）

専攻科は，高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し，もって広く産業の発展に寄与する人材を養成することを目的とする。

物質環境工学専攻では，本科課程で学んだ物質環境工学の基礎知識を基盤として，応用化学系，バイオ系，環境系の専門知識を系統的にさらに深め，その専門性を問題解決に適用できる実践的技術者を育成することを教育目的とする。

教育目標

本校は優れた技術者を育成する一方、技術相談や共同研究を通じて、地域社会や地域企業の発展に貢献したいと考えている。

本校は、実践的な技術者教育と地域に根ざした学校という特徴を生かして、大学とは異なる高等教育機関を目指します。本校は、地域、日本、世界のあらゆる分野で活躍するためには、以下の能力を備えた技術者が必要と考え、その育成を教育目標としている。

A. 創造力と実行力を持った技術者
B. 専門技術に関する基礎知識を持った技術者
C. 情報技術を活用できる技術者
D. 社会の歴史や文化、技術者倫理を理解して行動できる技術者
E. 多面的なコミュニケーション能力を持った技術者
F. 問題解決のためのデザイン能力を持った技術者

卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/policy）

（概要）

「函館工業高等専門学校専攻科の教育課程等に関する規程」において，次のとおり定めている。

専攻科の修了の認定は，教員会議の議を経て校長が行う。

専攻科の修了にあたっては，次に掲げる要件を満たさなければならない。

・専攻科に２年以上在籍すること。
・学則に基づく所定の授業科目の履修として，次の表による単位を修得していること。

| 専攻名 | 共通科目 | | 専門科目 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 必修科目 | 選択科目 | 必修科目 | 選択科目 | |
| 物質環境工学専攻 | 18 単位 | 8 単位以上 | 26 単位 | 10 単位以上 | 62 単位以上 |

・特別研究の成果を，学協会などで行われる研究発表会で発表していること。
・「学習・教育到達目標の達成度の評価方法と基準」に掲げる評価方法及び評価基準により，学習・教育到達目標を達成していること。

| 学習・教育到達目標の達成度の評価方法と基準(物質環境工学専攻) | | | |
|---|---|---|---|
| 学習・教育到達目標 | | | 評価基準(平成 30 年度以降の入学生) |
| A | A-1 | 自ら仕事を計画して継続的に実行し，まとめ上げることができる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」において，設計から製作までの計画を評価する。(計画の評価が 60%以上)<br>「特別研究Ⅰ(専 1)④」において，研究計画を立てて継続して実行したことを研究計画書および研究日誌により評価する。研究計画書が研究日誌に添付されており，研究時間が 90 時間以上。<br>「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，研究計画を立てて継続して実行し，まとめたことを研究計画書および研究日誌により評価する。研究計画書が研究日誌に添付されており，研究時間が 180 時間以上。 |
| | A-2 | チームの一員としての役割と責任を理解して自主的に行動できる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」において，貢献度評価が 60%以上。 |
| | A-3 | ものづくりのための創意工夫をすることができる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」の中で，創意工夫をした点についての評価が 60%以上。 |
| B | B-1 | 数学および物理などの自然科学の基礎知識を持っている。 | 「品質管理(専 1)②」<br>「応用解析学(専 1)②」，「流体物理(専 1)②」，「工業数学(専 1)②」の中のいずれか 1 科目以上。 |
| | B-2 | 物質環境工学(応用化学系，バイオ系，環境系)の基礎知識を持っている。 | 「構造有機化学(専 1)②」，「土壌学(専 1)②」，「植物生理学(専 1)②」，「食品加工学(専 1)②」「醸造・醗酵工学(専 2)②」，「化学生態学(専 2)②」，「機能性食品工学(専 2)②」 |
| | B-3 | 実験などを通して物質環境工学に関する実践的な基礎技術を身につけている。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」において，成果報告書の B-3 に関する評価項目により評価する。(評価が 60%以上) |
| C | C-1 | 情報の収集や整理などに，コンピュータなどの情報技術を用いることができる。 | 「特別研究Ⅰ(専 1)④」または「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，コンピュータを用いて情報検索を行った事例により評価する。 |
| | C-2 | データの分析や解析，グラフ化などにコンピュータを活用することができる。 | 「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」の発表の中で，コンピュータを用いてデータの分析や解析，グラフ化を行ったか否かを評価する。 |
| D | D-1 | 国際社会の多様な歴史的背景や文化的価値観を理解できる。 | 「グローバル・ケーススタディ(専 1)②」 |
| | D-2 | 科学技術が人間や社会，自然環境および未来の世代に与える影響を理解できる。 | 「北海道産業構造論(専 1)②」 |
| | D-3 | 技術者としての社会に対する役割と責任について説明できる。 | 「インターンシップ(専 1)④」において，インターンシップ報告書および発表会における D-3 に関する評価項目により評価する。(評価がそれぞれ 60%以上) |
| E | E-1 | 技術的課題について，自分の考えをまとめ，他者と討論できる。 | 「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，発表会の質疑応答の評価が 60%以上。 |
| | E-2 | 技術的成果を正確な日本語を用いて論理的な文書にまとめることができる。 | 「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，論文の評価が 60%以上。<br>学協会における発表の予稿が予稿集に掲載されたことにより達成したと評価する。 |
| | E-3 | 技術的成果を的確にプレゼンテーションすることができる。 | 「インターンシップ(専 1)④」において，インターンシップ報告会のプレゼンテーションの評価が 60%以上。<br>「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，発表会のプレゼンテーションの評価が 60%以上。<br>学協会で発表を行うことにより達成したと評価する。 |
| | E-4 | 国際的なコミュニケーションを行うための基礎的な英語理解力および表現力を持っている。 | 「グローバル・コミュニケーション(専 1)②」<br>「プラクティカル・サイエンス・イングリッシュ(専 2)②」 |
| F | F-1 | 問題を解決するための要素技術についての知識を持ち，その | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」の要素技術に関する評価が 60%以上。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 知識を応用できる。 | |
| | | F-2 | 問題解決のために複数の解決手法を考案し，その中から最適な解決策を提案できる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」の中で，工夫・改善の評価が 60%以上。<br>「特別研究Ⅰ(専 1)④」または「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において，試行錯誤の過程を記述させ，これにより評価する。(60%以上) |

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/policy）

（概要）

教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

専攻科では情報収集，企画立案・設計，実験，考察を進める総合力を有し，地域および世界で活躍できる技術者あるいは研究者を育成するために，専攻ごとに必要な科目を体系的に配置した教育課程を編成する。

修了認定の方針に掲げる能力を育成するため，語学力，コミュニケーション力，地域や世界を理解する能力を養う一般科目，各専攻の分野横断的な専門共通科目，各専攻において実践的な能力を育成する専門科目を配置している。

物質環境工学専攻では，応用化学系，バイオ系，環境系の専門知識を系統的にさらに深め，問題解決できる人材を育成するためのカリキュラムを編成する。

1. 専攻科共通の知識と技術を習得するために
   (1)工学の基盤となる自然科学分野，さらに経済，地域および国際社会を理解する科目を設け，講義を主として展開する。
   (2)必要な情報の収集やデータの解析に情報技術を駆使するため，コンピュータを活用する科目を設け，講義を主として展開する。
   (3)技術者としての社会的責任，技術が自然や社会に与える影響を理解するため，技術者倫理に関する科目を設け，講義を主として展開する。
2. 物質環境工学専攻の工学的専門能力を習得するために
   (1)応用化学系，バイオ系，環境系の専門科目を設け，講義や演習を主として展開する。
3. 社会における課題を解決できる総合的な力を習得するために
   課題解決型授業により，
   (1)応用化学系，バイオ系，環境系分野の知識を総合させる実験を主とした学修方法を展開する。
   (2)論理的なプロセスを設計・実践するための企画立案と創意工夫を伴う学修方法を展開する。
   (3)社会における技術者や研究者の実務を理解し，継続的努力を伴う特別研究やインターンシップを設ける。
4. 意見を伝え，周囲と協調し合うコミュニケーション力を習得するために
   (1)技術課題について日本語や英語で考えをまとめ，発表し，他者と討論できるため，英語による資料作成や発表を伴う科目を設け，講義や演習を主として展開する。
   (2)地域の実課題などの解決にチームで取り組む中でコミュニケーションをとり，合意形成や問題解決を図る力を育成する観点から課題解決型の授業を設け，実験，ディスカッションなどを伴う学修方法を展開する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/policy）

（概要）

入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

【求める人材像】

函館高専の専攻科課程では，創造的な技術開発能力，情報の高度処理能力及び提示能力，国際化への対応能力を総合的に兼ね備え，清廉な技術者倫理と社会への強い貢献意識を持った質の高い実践的技術者の育成を目指している。これを実現するため，各専攻科では教育を受けるにふさわしい学力，すなわち専門分野の基礎知識・数理能力・語学力を備え，専攻科入学以降もこれらの能力に加え，課題解決能力，特別研究遂行能力を高め，自らのキャリアデザインに生かそうとする意欲を備えた高専・短大等の卒業生，社会人を受け入れる。

(専攻科共通のアドミッションポリシー)
　専攻科では，次のような人の入学を期待している。
・地球規模で活躍する自分を想像して，国際社会と関わりを持とうという意欲のある人
・自らの良心に従って物事を判断しようとする人
(物質環境工学専攻のアドミッションポリシー)
・物質環境工学(応用化学系，バイオ系，環境系)の知識を高め，それらの知識を活用して農水産資源の有効利用や課題解決に取り組みたいという意欲のある人

【入学者選抜方針】
　本校では，「求める人材像」に沿って，その能力と適性を有する人材を選抜するため，推薦による選抜，学力試験による選抜，および社会人特別選抜を行う。

　推薦による選抜では，出身学校長が推薦した学生で，本校専攻科を受けるのに必要な素養と基礎学力を備えた学生を選抜するため，推薦書，調査書，成績証明書，自己アピール書およびアドミッションポリシーに定めた観点での面接を行い，その結果を総合的に評価する。
　学力検査による選抜では，本校専攻科を受けるのに必要な素養と数学，英語，および志望する専攻科の専門科目の基礎学力を備えた学生を選抜するため，学力検査結果およびTOEIC や英検のスコアと調査書，成績証明書，およびアドミッションポリシーに定めた観点での面接の結果を総合的に評価する。
　社会人特別選抜では，所属する企業等が推薦し，本校専攻科を受けるのに必要な素養と基礎学力を備えた学生を選抜するため，推薦書，調査書，成績証明書，英語能力に関する書類，並びにアドミッションポリシーに定めた観点での面接を行い，その結果を総合的に評価する。

| 学部等名　専攻科（社会基盤工学専攻） |
| --- |
| 教育研究上の目的（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/subject/senkou/aim） |

（概要）
　函館高専の専攻科は，生産システム工学専攻，物質環境工学専攻，社会基盤工学専攻の３専攻で構成され，高等専門学校本科における５年間の教育で培われた実践的技術者としての基盤の上に，高い専門性と広い視野，自ら新分野を開拓できる問題発見・解決能力と研究開発能力，国際的なコミュニケーション能力を備えた創造的な技術者の育成を目指しています。そのため，専攻科の目的（使命）及び各専攻の教育目的は次のように定められている。
専攻科の目的（使命）
　専攻科は，高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し，もって広く産業の発展に寄与する人材を養成することを目的とする。
社会基盤工学専攻の教育目的
　社会基盤工学専攻では，本科課程で学んだ社会基盤工学の基礎知識を基盤として，土木工学系（構造系，水・環境系，地盤・防災・施工系，計画・マネジメント系）とともに地域系やデザイン系の専門知識を系統的にさらに深め，その専門性を問題解決に適用できる実践的技術者を育成することを教育目的とする。
教育目標
　本校は優れた技術者を育成する一方、技術相談や共同研究を通じて、地域社会や地域企業の発展に貢献したいと考えている。
本校は、実践的な技術者教育と地域に根ざした学校という特徴を生かして、大学とは異なる高等教育機関を目指します。本校は、地域、日本、世界のあらゆる分野で活躍するためには、以下の能力を備えた技術者が必要と考え、その育成を教育目標としている。
　A. 創造力と実行力を持った技術者
　B. 専門技術に関する基礎知識を持った技術者
　C. 情報技術を活用できる技術者
　D. 社会の歴史や文化、技術者倫理を理解して行動できる技術者
　E. 多面的なコミュニケーション能力を持った技術者
　F. 問題解決のためのデザイン能力を持った技術者

卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/policy）

（概要）

「函館工業高等専門学校専攻科の教育課程等に関する規程」において，次のとおり定めている。

専攻科の修了の認定は，教員会議の議を経て校長が行う。

専攻科の修了にあたっては，次に掲げる要件を満たさなければならない。

・専攻科に2年以上在籍すること。

・学則に基づく所定の授業科目の履修として，次の表による単位を修得していること。

| 専攻名 | 共通科目 | | 専門科目 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 必修科目 | 選択科目 | 必修科目 | 選択科目 | |
| 生産システム工学専攻 | 18単位 | 8単位以上 | 20単位 | 16 単位以上 | 62 単位以上 |
| 物質環境工学専攻 | 18単位 | 8単位以上 | 26単位 | 10 単位以上 | 62 単位以上 |
| 社会基盤工学専攻 | 18単位 | 8単位以上 | 20単位 | 16 単位以上 | 62 単位以上 |

・特別研究の成果を，学協会などで行われる研究発表会で発表していること。

・「学習・教育到達目標の達成度の評価方法と基準」に掲げる評価方法及び評価基準により，学習・教育到達目標を達成していること。

| 学習・教育到達目標の達成度の評価方法と基準(社会基盤工学専攻) | | | |
|---|---|---|---|
| 学習・教育到達目標 | | | 評価基準(平成30年度以降の入学生) |
| A | A-1 | 自ら仕事を計画して継続的に実行し，まとめ上げることができる。 | 「地域課題対応型創造実験(専1)④」において，設計から製作までの計画を評価する。(計画の評価が60%以上)<br>「特別研究Ⅰ(専1)④」において，研究計画を立てて継続して実行したことを研究計画書および研究日誌により評価する。研究計画書が研究日誌に添付されており，研究時間が90時間以上。<br>「特別研究Ⅱ(専2)⑧」において，研究計画を立てて継続して実行し，まとめたことを研究計画書および研究日誌により評価する。研究計画書が研究日誌に添付されており，研究時間が180時間以上。 |
| | A-2 | チームの一員としての役割と責任を理解して自主的に行動できる。 | 「地域課題対応型創造実験(専1)④」において，貢献度評価が60%以上。 |
| | A-3 | ものづくりのための創意工夫をすることができる。 | 「地域課題対応型創造実験(専1)④」の中で，創意工夫をした点についての評価が60%以上。 |
| B | B-1 | 数学および物理などの自然科学の基礎知識を持ち，専門科目に応用できる。 | 「工業数学(専1)②」，「弾性力学(専1)②」<br>「応用物理(本4)②」又は「応用物理特講Ⅰ(本4，GM)②」 |
| | B-2 | 土木工学の基礎知識(構造系，水・環境系，地盤・防災・施工系，計画・マネジメント系)とともに，地域(地域系)やデザイン(デザイン系)に関する基礎知識を持っている。 | 「プロジェクト評価(専1)②」(計画・マネジメント系)，「地域・まちづくり論(専1)②」(地域系)<br>「コンクリート構造学Ⅲ(本4)②」(構造系)，「水理学Ⅲ(本4)②」(水・環境系)，「地盤工学(本4)②」(地盤・防災・施工系)<br>「都市空間デザイン(本4)①」または「都市空間デザイン特講(専1)②」(デザイン系) |
| | B-3 | 実験，演習を通して土木工学に関する実践的な基礎技術を身につけている。 | 「社会基盤工学総合演習(専2)②」において，各テーマのB-3に関する評価項目の合計により評価する。(評価が60%以上)<br>「建設工学実験Ⅰ(本4)②」，「建設工学実験Ⅱ(本5)②」 |
| C | C-1 | 情報の収集，データの整理や分析などに，コンピュータなどの情報技術を用いることができる。 | 「特別研究Ⅰ(専1)④」または「特別研究Ⅱ(専2)⑧」において，コンピュータを用いて情報検索を行った事例により評価する。 |
| | C-2 | 設計や製図，解析などに | 「社会基盤工学総合演習(専2)②」において，各テーマの |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 情報技術を活用できる。 | C-2 に関する評価項目の合計により評価する。(評価が60%以上)<br>「構造設計製図Ⅰ(本 4)②」,「構造設計製図Ⅱ(本 5)②」 |
| D | D-1 | 国際社会の多様な歴史的背景や文化的価値観を理解できる。 | 「グローバル・ケーススタディ(専 1)②」 |
| | D-2 | 科学技術が人間や社会,自然環境および未来の世代に与える影響を理解できる。 | 「北海道産業構造論(専 1)②」 |
| | D-3 | 技術者としての社会に対する役割と責任について説明できる。 | 「インターンシップ(専 1)④」において,インターンシップ報告書および発表会における D-3 に関する評価項目により評価する。(評価がそれぞれ 60%以上) |
| E | E-1 | 技術的課題について,自分の考えをまとめ,他者と討論できる。 | 「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において,発表会の質疑応答の評価が 60%以上。 |
| | E-2 | 技術的成果を正確な日本語を用いて論理的な文書にまとめることができる。 | 「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において,論文の評価が 60%以上。<br>学協会における発表の予稿が予稿集に掲載されたことにより達成したと評価する。 |
| | E-3 | 技術的成果を的確にプレゼンテーションすることができる。 | 「インターンシップ(専 1)④」において,インターンシップ報告会のプレゼンテーションの評価が 60%以上。<br>「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において,発表会のプレゼンテーションの評価が 60%以上。<br>学協会で発表を行うことにより達成したと評価する。 |
| | E-4 | 国際的なコミュニケーションを行うための基礎的な英語理解力および表現力を持っている。 | 「グローバル・コミュニケーション(専 1)②」<br>「プラクティカル・サイエンス・イングリッシュ(専 2)②」 |
| F | F-1 | 問題解決に向けて必要となる種々の基礎知識を活用し,制約条件を考慮して実現可能な方針を立案できる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」の要素技術に関する評価が 60%以上。 |
| | F-2 | 問題解決のために複数の解決方法を考案し,それらを評価してその中から最適な解決策を提案できる。 | 「地域課題対応型創造実験(専 1)④」の中で,工夫・改善の評価が 60%以上。<br>「特別研究Ⅰ(専 1)④」または「特別研究Ⅱ(専 2)⑧」において,試行錯誤の過程を記述させ,これにより評価する。(60%以上) |

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/policy）

（概要）

教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

専攻科では情報収集,企画立案・設計,実験,考察を進める総合力を有し,地域および世界で活躍できる技術者あるいは研究者を育成するために,専攻ごとに必要な科目を体系的に配置した教育課程を編成する。

修了認定の方針に掲げる能力を育成するため,語学力,コミュニケーション力,地域や世界を理解する能力を養う一般科目,各専攻の分野横断的な専門共通科目,各専攻において実践的な能力を育成する専門科目を配置している。

社会基盤工学専攻では,土木工学系とともに地域系やデザイン系の専門知識を系統的にさらに深め,問題解決できる人材を育成するためのカリキュラムを編成します。

1. 専攻科共通の知識と技術を習得するために
   (1)工学の基盤となる自然科学分野,さらに経済,地域および国際社会を理解する科目を設け,講義を主として展開する。
   (2)必要な情報の収集やデータの解析に情報技術を駆使するため,コンピュータを活用する科目を設け,講義を主として展開する。
   (3)技術者としての社会的責任,技術が自然や社会に与える影響を理解するため,技術者

倫理に関する科目を設け，講義を主として展開する。
2. 社会基盤工学専攻の工学的専門能力を習得するために
(1)土木工学や地域・デザイン系の専門科目を設け，実験，講義，演習を主として展開する。
3. 社会における課題を解決できる総合的な力を習得するために
課題解決型授業により，
(1)土木工学や地域・デザイン系分野の知識を総合させる実験を主とした学修方法を展開する。
(2)論理的なプロセスを設計・実践するための企画立案と創意工夫を伴う学修方法を展開する。
(3)社会における技術者や研究者の実務を理解し，継続的努力を伴う特別研究やインターンシップを設ける。
4. 意見を伝え，周囲と協調し合うコミュニケーション力を習得するために
(1)技術課題について日本語や英語で考えをまとめ，発表し，他者と討論できるため，英語による資料作成や発表を伴う科目を設け，講義や演習を主として展開する。
(2)地域の実課題などの解決にチームで取り組む中でコミュニケーションをとり，合意形成や問題解決を図る力を育成する観点から課題解決型の授業を設け，実験，ディスカッションなどを伴う学修方法を展開する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/policy）

（概要）
入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)
【求める人材像】
函館高専の専攻科課程では，創造的な技術開発能力，情報の高度処理能力及び提示能力，国際化への対応能力を総合的に兼ね備え，清廉な技術者倫理と社会への強い貢献意識を持った質の高い実践的技術者の育成を目指している。これを実現するため，各専攻科では教育を受けるにふさわしい学力，すなわち専門分野の基礎知識・数理能力・語学力を備え，専攻科入学以降もこれらの能力に加え，課題解決能力，特別研究遂行能力を高め，自らのキャリアデザインに生かそうとする意欲を備えた高専・短大等の卒業生，社会人を受け入れる。

(専攻科共通のアドミッションポリシー)
専攻科では，次のような人の入学を期待している。
・地球規模で活躍する自分を想像して，国際社会と関わりを持とうという意欲のある人
・自らの良心に従って物事を判断しようとする人
(社会基盤工学専攻のアドミッションポリシー)
・社会基盤工学(土木工学系，地域系，デザイン系)の知識を高め，それらの知識を活用して社会基盤整備や課題解決に取り組みたいという意欲のある人

【入学者選抜方針】
本校では，「求める人材像」に沿って，その能力と適性を有する人材を選抜するため，推薦による選抜，学力試験による選抜，および社会人特別選抜を行う。

推薦による選抜では，出身学校長が推薦した学生で，本校専攻科を受けるのに必要な素養と基礎学力を備えた学生を選抜するため，推薦書，調査書，成績証明書，自己アピール書およびアドミッションポリシーに定めた観点での面接を行い，その結果を総合的に評価する。
学力検査による選抜では，本校専攻科を受けるのに必要な素養と数学，英語，および志望する専攻科の専門科目の基礎学力を備えた学生を選抜するため，学力検査結果およびTOEIC や英検のスコアと調査書，成績証明書，およびアドミッションポリシーに定めた観点での面接の結果を総合的に評価する。
社会人特別選抜では，所属する企業等が推薦し，本校専攻科を受けるのに必要な素養と基礎学力を備えた学生を選抜するため，推薦書，調査書，成績証明書，英語能力に関する書類，並びにアドミッションポリシーに定めた観点での面接を行い，その結果を総合的に評価する。

②教育研究上の基本組織に関すること

| |
|---|
| 公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/disclosure/kihonnsosiki |

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

| 学部等の組織の名称 | 学長・副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| － | 1人 | － | | | | | 1人 |
| 生産システム工学科 | 3人 | 11人 | 13人 | 1人 | 0人 | 0人 | 28人 |
| 物質環境工学科 | － | 4人 | 5人 | 0人 | 0人 | 0人 | 9人 |
| 社会基盤工学科 | 1人 | 2人 | 5人 | 0人 | 0人 | 0人 | 8人 |
| 一般系 | － | 11人 | 11人 | 0人 | 0人 | 0人 | 22人 |

b.教員数（兼務者）

| 学長・副学長 | 学長・副学長以外の教員 | 計 |
|---|---|---|
| 0人 | 8人 | 8人 |

| | |
|---|---|
| 各教員の有する学位及び業績（教員データベース等） | 公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/subject/teachers（本校ホームページ），https://researchmap.jp/（researchmap） |

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

| 学部等名 | 入学定員(a) | 入学者数(b) | b/a | 収容定員(c) | 在学生数(d) | d/c | 編入学定員 | 編入学者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 生産システム工学科 | 120人 | 118人 | 98.3% | 600人 | 587人 | 97.8% | 若干名 | 1人 |
| 物質環境工学科 | 40人 | 37人 | 92.5% | 200人 | 206人 | 103.0% | 若干名 | 1人 |
| 社会基盤工学科 | 40人 | 31人 | 77.5% | 200人 | 163人 | 81.5% | 若干名 | 0人 |
| 合計 | 200人 | 186人 | 93.0% | 1,000人 | 956人 | 95.6% | 若干名 | 2人 |
| 生産システム工学専攻 | 12人 | 14人 | 116.7% | 24人 | 27人 | 112.5% | -人 | -人 |
| 物質工学環境専攻 | 4人 | 1人 | 25.0% | 8人 | 5人 | 62.5% | -人 | -人 |
| 社会基盤工学専攻 | 4人 | 2人 | 50.0% | 8人 | 4人 | 50.0% | -人 | -人 |
| 合計 | 20人 | 17人 | 85.0% | 40人 | 36人 | 90.0% | -人 | -人 |

（備考）

| b.卒業者数、進学者数、就職者数 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学部等名 | 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 |
| 生産システム工学科 | 115 人<br>（100%） | 41 人<br>（35.7%） | 70 人<br>（60.9%） | 4 人<br>（3.4%） |
| 物質環境工学科 | 29 人<br>（100%） | 16 人<br>（55.2%） | 12 人<br>（41.4%） | 1 人<br>（3.4%） |
| 社会基盤工学科 | 40 人<br>（100%） | 9 人<br>（22.5%） | 28 人<br>（70.0%） | 3 人<br>（7.5%） |
| 合計 | 184 人<br>（100%） | 66 人<br>（35.9%） | 110 人<br>（59.8%） | 8 人<br>（4.3%） |
| 生産システム工学専攻 | 17 人<br>（100%） | 3 人<br>（17.6%） | 13 人<br>（76.5%） | 1 人<br>（5.9%） |
| 物質環境工学専攻 | 4 人<br>（100%） | 0 人<br>（0.0%） | 4 人<br>（100%） | 0 人<br>（0.0%） |
| 社会基盤工学専攻 | 2 人<br>（100%） | 1 人<br>（50.0%） | 1 人<br>（50.0%） | 0 人<br>（0.0%） |
| 合計 | 23 人<br>（100%） | 4 人<br>（17.4%） | 18 人<br>（78.3%） | 1 人<br>（4.3%） |
| （主な進学先・就職先）（任意記載事項） | | | | |
| （備考） | | | | |

| c.修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項） | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 学部等名 | 入学者数 | 修業年限期間内卒業者数 | 留年者数 | 中途退学者数 | その他 |
| | 人<br>（100%） | 人<br>（　　%） | 人<br>（　　%） | 人<br>（　　%） | 人<br>（　　%） |
| | 人<br>（100%） | 人<br>（　　%） | 人<br>（　　%） | 人<br>（　　%） | 人<br>（　　%） |
| 合計 | 人<br>（100%） | 人<br>（　　%） | 人<br>（　　%） | 人<br>（　　%） | 人<br>（　　%） |
| （備考） | | | | | |

## ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

国立高等専門学校ではシラバスを統一したフォーマットで作成し,Web 上で公開している。
掲載事項は次のとおりである。

・科目基礎情報（科目名，開設期，単位数等）
・到達目標
・ルーブリック（理想的な到達レベルの目安，標準的な到達レベルの目安，未到達レベルの目安）
・学科の到達目標項目との関係
・教育方法等
・授業計画（授業内容・方法，週ごとの到達目標）
・評価割合（試験，発表，相互評価，態度，ポートフォリオ，レポート，合計）

授業計画の作成は，前年度の１月～2 月に実施。
公表時期は毎年４月１日より実施。

## ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

＜学修の成果に係る評価の基準に関する事項＞

（本科）

学業成績の評定は，次のとおり実施している。

・期末成績は，試験の成績及び平素の成績によって評定する。
・学年成績は，各期の期末成績を総合して評定する。
・成績の評定は 100 点法を用い，整数で評点する。
・同一科目を複数の教員が担当している場合は，担当教員の合議によって評定する。
・試験以外の方法によって評定を行える科目又は特別の理由のある科目については，期末成績の評定を行わないことがある。
・正当な理由なく試験を欠席した者及び答案を提出しなかった者の当該科目の試験成績は，0 点とする。
・やむを得ない事由により試験を欠席した者に対して追試験がなされない場合は，成績の評定を行わないことがある。ただし，学年成績は評定する。
・担当教員が特に必要と認めた場合は，再試験及び補講等を行い，その結果を反映し評定を行うことができる。

学業成績の評語は，秀（90 点～100 点），優（80 点～89 点），良（70 点～79 点），可（60 点～69 点）及び不可（0 点～59 点）で表すものとする。

（専攻科）

成績の評価及び評定は，次のとおり実施している。

・授業科目の成績評価は，試験の成績及び平素の学習状況等を総合して行うものとする。
・成績の評価は，100 点法により評価し，優（100 点～80 点），良（79 点～70 点），可（69 点～60 点）及び不可（59 点以下）と評定する。

＜卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること＞

（本科）

学年の課程の修了認定は，教員会議の議を経て校長が行うこととし，次の全てに該当する者は，当該学年の課程を修了したものとし進級を認める。

・算定出席日数が，年間の出席すべき日数の 10 分の 8 以上あること。ただし，傷病その他やむを得ない理由による欠席がある場合は，年間の出席すべき日数の 10 分の 7 以上であること。
・当該学年において修得すべき全ての必修科目及び選択必修科目を修得していること。
・第 1 学年から第 3 学年までは特別活動の出席日数が年間の出席すべき時間数の 10 分の 8 以上あること。ただし，傷病その他やむを得ない理由による欠席がある場合は，年間の出席すべき日数の 10 分の 7 以上であること。
・当該学年までの修得累積単位数が次の表の基準を満たしていること。

| 学科＼学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 生産システム工学科 | 24 | 57 | 93 | 127 | 167 |
| 物質環境工学科 | | | 93 | 130 | |
| 社会基盤工学科 | | | 92 | 128 | |

全学年において修得すべき全ての科目を修得した者は，本校の全学年の課程を修了したものとし，教員会議の議を経て，校長が卒業を認める。

（専攻科）

専攻科の修了の認定は，教員会議の議を経て校長が行う。

専攻科の修了にあたっては，次に掲げる要件を満たさなければならない。

・専攻科に 2 年以上在籍すること。
・学則に基づく所定の授業科目の履修として，次の表による単位を修得していること。

| 専攻名 | 共通科目 | | 専門科目 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 必修科目 | 選択科目 | 必修科目 | 選択科目 | |
| 生産システム工学専攻 | 18 単位 | 8 単位以上 | 20 単位 | 16 単位以上 | 62 単位以上 |
| 物質環境工学専攻 | 18 単位 | 8 単位以上 | 26 単位 | 10 単位以上 | 62 単位以上 |
| 社会基盤工学専攻 | 18 単位 | 8 単位以上 | 20 単位 | 16 単位以上 | 62 単位以上 |

・特別研究の成果を，学協会などで行われる研究発表会で発表していること。
・「学習・教育到達目標の達成度の評価方法と基準（別添参照）」に掲げる評価方法及び評価

| 基準により，学習・教育到達目標を達成していること。 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学部名 | 学科名 | 卒業に必要となる単位数 | ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項） | 履修単位の登録上限（任意記載事項） |
| | 生産システム工学科 | 167 単位 | 有・無 | 単位 |
| | 物質環境工学科 | 167 単位 | 有・無 | 単位 |
| | 社会基盤工学科 | 167 単位 | 有・無 | 単位 |
| | 生産システム工学専攻 | 62 単位 | 有・無 | 単位 |
| | 物質環境工学専攻 | 62 単位 | 有・無 | 単位 |
| | 社会基盤工学専攻 | 62 単位 | 有・無 | 単位 |
| ＧＰＡの活用状況（任意記載事項） | | 公表方法： | | |
| 学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項） | | 公表方法： | | |

## ⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/disclosure/1170-2

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

| 学部名 | 学科名 | 授業料（年間） | 入学金 | その他 | 備考（任意記載事項） |
|---|---|---|---|---|---|
| | 生産システム工学科 | 234,600 円 | 84,600 円 | 700～800 円 | 寄宿料（入寮生のみ） |
| | 物質環境工学科 | 234,600 円 | 84,600 円 | 700～800 円 | 寄宿料（入寮生のみ） |
| | 社会基盤工学科 | 234,600 円 | 84,600 円 | 700～800 円 | 寄宿料（入寮生のみ） |
| | 生産システム工学専攻 | 234,600 円 | 84,600 円 | 700～800 円 | 寄宿料（入寮生のみ） |
| | 物質環境工学専攻 | 234,600 円 | 84,600 円 | 700～800 円 | 寄宿料（入寮生のみ） |
| | 社会基盤工学専攻 | 234,600 円 | 84,600 円 | 700～800 円 | 寄宿料（入寮生のみ） |

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）
○函館工業高等専門学校教育研究支援基金（戸倉基金）
○優秀な学生に対する奨学給付金等
○課外活動や修学事業への助成
○学生の国際学会等発表に対する助成

b.進路選択に係る支援に関する取組

（概要）
本校では，個々の学生に対する進路選択の支援組織として，進路支援室を設置しており，一貫したキャリア教育として，学年ごとに目標設定と振り返りを行わせ，進路決定とともに最終的な自己実現の達成につながる指導を行っている。
また，学生一人ひとりの進路選択をバックアップするため，キャリアデザイン講座，進学就職に関する講座及び各種イベントなどを実施しており，毎年，本校卒業生・修了生の進学・就職等の進路決定率は，ほぼ 100%を達成している。

c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）
・学生に対する総合的な支援を行うことを目的として「総合学生支援センター」を設置し、毎月開催する定例会においては、要支援学生リスト等を作成し、支援が必要な学生について教職員間で情報共有を行っている。

・総合学生支援センターの下に学生相談室がある。学生相談室は、本校教職員７名と臨床心理士の資格を持った非常勤カウンセラー2 名で構成されており、毎週月～金曜日の 15 時から 17 時まで開設している。学生相談室員は、学生から様々な相談を受け対応している。さらに「学生に対する学校生活及びメンタルヘルス調査」，「こころと体の健康調査」等の調査等を実施し，注意が必要な学生の早期発見に繋げている。

・臨床心理士の資格を有する教員を構成員とし、学生の心の健康の維持・増進を図るため，校長の下にヘルスアソシエイトオフィスを設置し、学生に対する心理カウンセリング及び心理アセスメントに関すること、障害等を有する学生の担任教員等への指導・助言に関すること、学生支援に関する各種研修の企画，立案及び実施に関することを担当する。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.hakodate-ct.ac.jp/disclosure/1170-2

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|---|---|
| 学校コード | G101110100535 |
| 学校名 | 函館工業高等専門学校 |
| 設置者名 | 独立行政法人国立高等専門学校機構 |

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|---|---|---|---|---|
| 支援対象者（家計急変による者を除く） | | 85人 | 84人 | 85人 |
| 内訳 | 第Ⅰ区分 | 44人 | 44人 | |
| | 第Ⅱ区分 | 28人 | 26人 | |
| | 第Ⅲ区分 | 13人 | 14人 | |
| 家計急変による支援対象者（年間） | | | | 0人 |
| 合計（年間） | | | | 85人 |
| （備考） | | | | |

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---|---|
| 年間 | 0人 |

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。） | |
|---|---|---|---|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定 | | － | |
| 修得単位数が標準単位数の５割以下<br>（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下） | | 0人 | |
| 出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況 | | 0人 | |
| 「警告」の区分に連続して該当 | | 0人 | |
| 計 | | － | |
| （備考） | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 | | 短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。） | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 年間 | | 前半期 | 0人 | 後半期 | 0人 |

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---|---|
| 退学 | 0人 |
| ３月以上の停学 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| （備考） | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---|---|
| ３月未満の停学 | － |
| 訓告 | 0人 |
| 年間計 | － |
| （備考） | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。） | |
|---|---|---|---|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修得単位数が標準単位数の６割以下（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下） | | 0人 | 0人 |
| ＧＰＡ等が下位４分の１ | | 0人 | 17人 |
| 出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況 | | 0人 | 0人 |
| 計 | | 0人 | 17人 |
| （備考） | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。